

第2章

総社市の地域概況

第2章 総社市の地域概況

第1節 自然的条件

総社市は、岡山県南西部の内陸部に位置し、総面積は 211.90 km²です。東部は岡山市、南部は倉敷市、西部は矢掛町及び井原市、北部は高梁市及び吉備中央町と隣接しています。地理的構造を大きく分けると、北部には山間部、南部には中心部を都市形成エリアと、その周りの田園地域が広がる平野部、その平野部を囲むように丘陵部があります。また、南北を岡山県三大河川の一つであり、一級河川の高梁川が貫流しています。

総社市の気象は、年平均気温は概ね 14℃～15℃、降水量は概ね 1,000mm～1,200 mmで、温暖少雨で晴天に恵まれた瀬戸内式気候に属します。

第2節 社会的条件

総社市では、総社市流の独自政策として、「子育て王国そうじゃ」・予約型乗合タクシー「雪舟くん」・「障がい者千五百人雇用」・「地食べ」・「英語特区」などを展開しています。また、高速道路網や鉄道の要衝に近く、その好立地を活かした企業誘致を成功させています。そうしたことから、近年では人口及び出生数も増加し、県下有数の発展を続けています。

1 人口・世帯数

平成 27 年の国勢調査によると、総社市の人口は 66,855 で、岡山県の 3.4%を占めており、人口及び世帯数は、増加傾向にあります。しかし、一世帯当たり人員は減少しています。

2 産業別就業人口

総社市は、昭和 40 年代頃から県南工業地帯の発展に伴って、自動車産業を中心とした内陸工業が発展してきました。

総社市の産業別就業人口（15 歳以上就業者数）は、平成 7 年から平成 22 年にかけて、減少傾向にありましたが、近年の企業誘致政策などにより平成 27 年度には増加しています。産業別にみると、第 1 次産業、第 2 次産業は減少傾向にありますが、第 3 次産業は増加傾向にあります。

3 土地利用

平成 28 年における総社市の地目別面積では、30.0%を山林が占め、次いで田が 11.1%となっています。平成 24 年から平成 28 年における地目別面積の推移では、田、畑及び山林が減少し、宅地、原野及び雑種地が増加しています。

4 運輸交通

総社市には、3つの基幹道路である国道180号、国道429号、国道486号があります。また、北東部に高速道路の岡山自動車道があり、岡山市との市境に岡山総社インターチェンジが設けられています。今後は、市内南北のアクセスが脆弱であるため、道路整備も4ルートを計画し、一層の道路交通網の利便性向上を進めています。鉄道においても、JR総社駅は、JR吉備線、JR伯備線、井原鉄道によるターミナル駅となっています。

5 公共施設

総社市内の主な公共施設は、行政機関、福祉施設、文化施設、スポーツ・レクリエーション施設、観光施設、学校等の各施設が市内に広く分布しています。

6 文化財

総社市は古くは古代吉備国が繁栄した地であり、多くの史跡や文化財があり、国指定13件、県指定18件、市指定42件、登録有形文化財が30件となっています。

7 観光地・レクリエーション

総社市は豊かな歴史遺産に恵まれ、高梁川や吉備高原、田園などの自然にも恵まれ、広範囲に観光・レクリエーション地が点在しています。

